



平成 29 年 4 月 14 日

各 位

東京都大田区大森北 1 丁目 1 番 10 号
 会社名 株式会社 大庄
 代表者名 代表取締役社長 平 了寿
 (コード番号 9979 東証第 1 部)
 問合せ先 専務取締役 水野 正嗣
 (TEL 03-5764-2229)

**第 2 四半期業績予想との差異及び通期業績予想の修正
 並びに特別損失の計上に関するお知らせ**

平成 28 年 10 月 14 日に公表した平成 29 年 8 月期第 2 四半期累計期間の業績予想と実績との差異が生じたので、下記の通りお知らせいたします。また、通期業績予想の修正及び特別損失の計上につきまして、下記の通りお知らせいたします。

記

1. 業績予想との差異および修正について

(1) 連結

第 2 四半期累計期間連結業績予想値との差異 (平成 28 年 9 月 1 日～平成 29 年 2 月 28 日) (単位: 百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する四半期純利益	1株当たり四半期純利益
前回発表予想 (A)	33,700	270	290	80	3円 87銭
実績値 (B)	32,256	194	201	△77	△3円 74銭
増減額 (B-A)	△1,444	△76	△89	△157	—
増減率 (%)	△4.2	△28.1	△30.7	—	—
前期第 2 四半期実績 (平成 28 年 8 月期第 2 四半期)	34,907	66	60	△208	△10円 10銭

通期連結業績予想の修正 (平成 28 年 9 月 1 日～平成 29 年 8 月 31 日) (単位: 百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想 (A)	67,750	700	740	180	8円 70銭
今回修正予想 (B)	65,200	700	750	150	7円 25銭
増減額 (B-A)	△2,550	0	10	△30	—
増減率 (%)	△3.8	0.0	1.4	△16.7	—
前期実績 (平成 28 年 8 月期)	68,537	△24	△73	1,419	68円 63銭

(2) 個別

第 2 四半期累計期間個別業績予想値との差異 (平成 28 年 9 月 1 日～平成 29 年 2 月 28 日) (単位: 百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
前回発表予想 (A)	29,450	150	670	450	21円 75銭
実績値 (B)	28,180	53	593	374	18円 09銭
増減額 (B-A)	△1,270	△97	△77	△76	—
増減率 (%)	△4.3	△64.7	△11.5	△16.9	—
前期第 2 四半期実績 (平成 28 年 8 月期第 2 四半期)	30,004	△75	△67	△274	△13円 27銭

通期個別業績予想の修正 (平成 28 年 9 月 1 日～平成 29 年 8 月 31 日) (単位: 百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想 (A)	59,250	400	940	490	23円 69銭
今回修正予想 (B)	56,870	400	960	470	22円 72銭
増減額 (B-A)	△2,380	0	20	△20	—
増減率 (%)	△4.0	0.0	2.1	△4.1	—
前期実績 (平成 28 年 8 月期)	58,487	△293	△337	648	31円 37銭

2. 業績予想との差異および修正の理由

(1) 第2四半期連結業績予想値との差異の理由

売上高につきましては、飲食事業において、当社グループの既存店売上高の累計実績が対前年比 98.1%と、当初計画（対前年比 100.6%）を下回ったことや、店舗閉鎖が計画数よりも増加したことが影響し、前回予想を下回りました。

一方、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては、売上高減少により売上総利益額が減少したことが主として影響し、前回予想を下回りました。

(2) 通期連結業績予想の修正理由

売上高につきましては、上記の通り、第2四半期において既存店売上高が減少したことや、店舗閉鎖の計画数が増加したことなども影響し、前回予想を下回りました。

一方、営業利益は、売上高の減少はあるものの、販売管理費を中心にコスト削減効果が見込まれるため、前回予想通りとなっております。経常利益は、営業外収益の増加が見込まれるため、前回予想を僅かながら上回りました。また、親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、特別損失額の増加を見込んだことが影響し、前回予想を下回りました。

(3) 第2四半期個別業績予想値との差異の理由

売上高につきましては、既存店売上高の累計実績が対前年比 98.1%と、当初計画（対前年比 100.6%）を下回ったことや、店舗閉鎖が計画数よりも増加したことが影響し、前回予想を下回りました。

一方、営業利益、経常利益、四半期純利益につきましては、売上高減少により売上総利益額が減少したことが主として影響し、前回予想を下回りました。

(4) 通期個別業績予想の修正理由

売上高につきましては、上記の通り、第2四半期において既存店売上高が減少したことや、店舗閉鎖の計画数が増加したことなども影響し、前回予想を下回りました。

一方、営業利益は、売上高の減少はあるものの、販売管理費を中心にコスト削減効果が見込まれるため、前回予想通りとなっております。経常利益は、営業外収益の増加が見込まれるため、前回予想を僅かながら上回りました。また、当期純利益につきましては、特別損失額の増加を見込んだことが影響し、前回予想を下回りました。

なお、平成29年8月期の配当につきましては、当初の公表計画通り1株当たり14円（中間6円、期末8円）を予定しております。

3. 特別損失の計上

当社は、平成29年8月期第2四半期において下記の通り特別損失の計上を行います。

(1) 連結

合計で162百万円の特別損失を計上いたします。詳細は下記の通りです。

①固定資産除却損 87百万円

店舗改装等に伴う資産の除却・解体工事費用を計上いたします。

②減損損失 40百万円

最近の業績動向及び今後の見通しを踏まえ、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、店舗設備資産等の減損処理を計上いたします。

③店舗関係整理損 31百万円

店舗閉鎖後に発生する費用等を計上いたします。

④店舗閉鎖損失引当金繰入額 3百万円

閉鎖予定店舗に関わる賃貸借契約に基づく違約金及び空家賃等についての引当金を計上いたします。

(2) 個別

合計で163百万円の特別損失を計上いたします。詳細は下記の通りです。

①固定資産除却損 87百万円

店舗改装等に伴う資産の除却・解体工事費用を計上いたします。

②減損損失 40百万円

最近の業績動向及び今後の見通しを踏まえ、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、店舗設備資産等の減損処理を計上いたします。

③店舗関係整理損 32百万円

店舗閉鎖後に発生する費用等を計上いたします。

④店舗閉鎖損失引当金繰入額 3百万円

閉鎖予定店舗に関わる賃貸借契約に基づく違約金及び空家賃等についての引当金を計上いたします。

(注) 上記の予想は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績等は、今後の様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以上